

♡ ことばの力 ♡ からだの力 ♡ こころの力

園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 平成29年9月29日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園

運動会

です。お楽しみに！

ようやく朝夕涼しくなってきました。いよいよ、実りの秋に入ります。

幼稚園では、運動会モード一色です。広い学園グラウンドへ行って、子どもたちは練習を重ねています。



その内容は、日頃の保育の中で繰り返し取り組んでいるものです。これを生かして、のびのびと全身を使って、歌やダンスにと表現をします。初めての年少組さんはどうでしょうか。小さな身体で大きな成長を見せてくれることでしょうか。年中組さんは、年少組のときから、パラバルーンをしたいと大きな期待を寄せてきました。「次は私たちの番だ」と意欲的に取り組んでいます。そして、幼稚園最後の運動会となる年長組さん。自分たちで楽譜を覚えたり、自由遊びのときにCDをかけて練習をしたりと、さすが「自分で」「自分が」を意識した姿を見せてくれています。組体操や鼓隊、リレーに懸命に取り組んでいます。お家の皆さんに、見てほしい、見せたいという強い気持ちをもっていることがよくわかります。どうか、声援をお願いいたします。

そして前日準備も含め、保護者会役員の皆さま、保護者の皆さまには大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

お天気に恵まれ、子どもたちにとってすばらしい経験ができる運動会となりますことを願っています。



地域の方から毎年たくさんのどんぐりを届けていただいています。子どもたちとともに感謝したいと思います。



ちょっといいお話

「お父さんはこの絵が好きなんだ」

一学期、幼稚園では、児童画コンクールに応募しました。お題は、「ぼくのわたしの宝物」です。年少組から年長組までそれぞれが思う存分に宝物を描いて出品しました。その結果、多くの入選があり、全員参加賞もいただきました。良かったですね。

ある保護者の方がお迎えのときに、そっと担任にお話に来られました。「先生、このたびはどうもありがとうございました。うちの子は幼いので入選して驚きました。」「良かったですね。おめでとうございます。」「実は、お父さんがこの子の絵を大好きなんです。」

とかく、大人の価値観で絵を上手下手と決めてしまいがちですが、このように、ご家庭で、ありのままのお子さんの絵を受け止め、他の子と比較するのではなく、「ええなあ、お父さんは好きや」なあんで言われたらどんなに嬉しいでしょうか。このお話を担任から報告され、とても幸せな気持ちになりました。このお父さんがいて、お母さんがいて、このお子さん。安心してのびのびと成長しているのは言うまでもありません。



ちょっと耳の痛いお話

「子どもの話を鵜呑みにしないで」

子どもは成長するにつれて自分の都合のいい話をします。「お母さんは食べなくてもいいと言うてた」苦手な給食を目の前に苦しい言い訳。もちろんそんなことをお母さんが言うはずもありませんから笑い話ですむのですが。反対の場合、「先生は～と言うてた」とお家で子どもが話した場合はどうされますか？子どもの話を鵜呑みにして振り回されない大人の知恵が求められますね。



あれ？と不安なときはどうぞご相談ください。